



信太の森ニュース

No. 46
2024年8月20日

文責 田丸八郎



新しく建替えた惣ヶ池湿地の看板（北入口）

惣ヶ池湿地の看板が新しくなりました。昨年度後半にトラスト協会より看板の立替について話があり新しく作り替えることにしました。

惣ヶ池湿地が整備されてから24年。整備当時に設置された看板は倒れたりしていたものを補強したり、数年前に画面だけを活かして建替えてきましたが、既に1基は倒れ、他の1基はぐらついていました。

トラスト協会には、前の看板より少し大きめのものをお願いしていたところ、出来上がった看板は旧看板の2倍の大きなものでした。

図面は旧看板と殆ど変わりませんが、新しい看板には、新木道と里山自然公園との位置

が分かるようにしたこと。湿地の貴重種、コモウセンゴケ、コバナノワレオコウ、ニホンアカガエルの写真を入れています。

看板には「大阪府・和泉市・大阪みどりのトラスト協会」名で依頼したのですが、出来上がった看板には「信太の森FANクラブ」名も入れてありました。

看板の枠材は、森林ボランティアで活躍する谷口さんがヒノキ間伐材を運び込んでくれていたものを活用することに。

新しい看板は湿地の北側入口と湿地の南端に設置し、旧看板の1基を湿地最北面に設置しました。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

里山自然公園西エリアオープン

この夏、8月1日から「信太山丘陵里山自然公園」西エリアが正式にオープンしました。

そのオープニング・セレモニーが8月4日(日)に市長、市議会議員等出席のもとに行われました。

オープニング・セレモニーには、この里山自然公園を求めて運動を進めてきた第一人者である信太の森FANクラブ花田茂義前代表の遺影を掲げて出席しました。

そんなこともあってか市長挨拶では、市民の要望でこの里山自然公園ができたこと、市長自身が花田代表の教え子であったことなどにも触れた挨拶がありました。

セレモニー終了後参加者全員で記念撮影。公園協議会会長の増田昇(大阪公立大名誉教授)氏の記念講演があり、オープニング・セレモニーは終了しました。

オープニング・イベントは気候が涼しくなった10月に開催される予定です。

公園管理棟など施設管理については、一般財団法人和泉市公共施設管理公社が管理することとなりますが、館長には、経験者のHさん。管理人については、信太の森FANクラブ会員4名(田丸、廣石、米田、山口)と和泉の国自然観クラブ会員2



名。館長経験者のIさんの8名が施設管理者に雇用される形で運営されることになり、FANクラブの4名は月に1～3日の勤務となります。

開館は9時から5時。開館日は週5日で水曜日～日曜日。休館日は月曜日と火曜日になります。

泉北水道企業団跡地にスポーツ施設?

今年度に入り和泉市議員のチラシを見ていると泉北水道企業団跡地に総合スポーツ施設建設を歓迎する内容のチラシが数件ありました。

つい最近では、地元議員のチラシには「令和6年度市政運営方針において辻市長は、この公園(里山自然公園)のすぐ近くである泉北水道企業団浄水場跡地を想定し、仮称北部総合スポーツセンター基本構想の策定に取り組みます」と明言しており、今後の動向に注目が集まっています。」としており、もう一人の議員は「市長の公約として北部総合スポーツセンター及びアリーナの設置を掲げていただき、この度事業化されることを嬉しく思います」としています。

この件に関して和泉市は既にコンサルに構想を投げかけているとの報道もあり、信太山丘陵の自然にどれだけ影響があるのか私たちが検討し、注視していく必要があります。

惣ヶ池湿地に生き物監視カメラ設置

今年3月に大阪みどりのトラスト協会を通じて大阪府生物多様性センターより惣ヶ池湿地に生き物監視カメラの設置について申し入れがあり、3月24日に監視カメラを南側(A)と北側(B)に其々1台設置しました。

慣れない機器の操作ミスもあり、4、5月の結果は、南側は電源ミス?で記録無し。北側のみ生き物の記録がありました。

北側では、タヌキ、野良猫、アライグマ、シロハラ(野鳥)の記録があり、タヌキの映像が一番多く、次が野良猫。アライグマは3回程と少ないです。

6月も設置ミス?北側は記録無し。南側では数回タヌキが写っていましたが、再度見直すと画面の端で光動くものが。光るものは目でネズミのようなものが写っていました。

7月では1シーンにアライグマ一家(4匹)が写っており、ふっくらした感じのタヌキは夏になると体全体がほっそりしているのがわかりました。

この監視カメラの映像は、2ヶ月毎に大阪府生

物多様性センターに送っており、年間どんな生き物が確認されるのか楽しみです。

信太山ホタル観察会

15, 6年前だったのでしょうか。メダカやカエルなど水辺の生き物調査をしていた頃、高石市にある富木グランド横の水路でホタルを見付けたことがあります。そのホタルはヘイケボタルのようでしたが、府道30号線がすぐ近くを通る街中にホタルが居ることに驚きとともに感動しました。

その後、信太山丘陵の通称：山の谷集落を散策していて畑周りの水路で沢山のワニナの死骸を見付けたことがあります、その後の生き物調査で当クラブのMさんと山の谷にホタルを探しに行き、光の点滅が速いヒメボタルが沢山いることが分かりました。

その翌年以降ホタルを観に行っていました、ゲンジボタルやイケボタルが数匹飛んでいるだけでした。

今年6月Mさんが山の谷に調査に行くというので、行ってみると大野池に流入する水路やオオタチヤナギの森の中で沢山のゲンジボタルが飛んでいました。

ヘイケボタルに比べ光り方が強いゲンジボタルがこれだけ多ければFANクラブ会員のみなさんも楽しんでくれるだろうと信太山周辺の会員に声を掛け、ホタルの観察会を二回行いました。参加したみなさんには楽しんでいただけたようでした。

信太山丘陵でもホタル観賞ができるこの山の谷の里山的環境。いつまでも残ってほしいものです。

後日談ですが、会員三輪さんの話によると、惣ヶ池湿地のミゾバ群落付近でヘイケボタルを確認したとの報告を受けました。惣ヶ池湿地の生き物がまた一種増えました。



幻想的な風景に感動（投稿）

6月に入り、毎日暑い太陽の光がふりそそいで、夏を感じ始めています。6月4日に知り合いの方からホタルを観に行きませんかと誘いを受け、何十年振りだと思い、喜んで連れて行って貰いました。

信太山の集落の水路にカワニナがいて、虫が繁殖できる環境が残っているようです。

午後8時過ぎ現地に着き、暗闇の中を懐中電灯を頼りに歩きはじめました。水路の所々に小さな光があり、ヘイケボタルだと教わりました。10分ほど先に進むと水の流れる音が聞こえ、その方向を見ると今まで見たことのないほどホタルの乱舞が現れました。

なんと幻想的な風景でしょうか。時を忘れて見入っていると、しばらく光が途絶えたようなので、持っていた懐中電灯を点滅すると反応があり、また光りだしました。

信太山にはまだ自然が多く残っていることを再認識し、いつまでも残って欲しいと思いながらその場を離れました。（山崎）

希少種の保存について

FANクラブを立ち上げた頃だったのでしょうか。近くの園芸店に勤務する青年が花田代表（当時）を訪ねて来て、信太山丘陵のサギソウ保存について話がもちかけられ、その青年Tと花田氏、島崎氏、筆者の4人で「SSプロジェクト」を立ち上げました。

「SS」とは、信太山丘陵のS。サギソウのSのことで、花田氏はこうした命名が得意でした。このSSプロジェクトで岡山県立自然公園までサギソウの見学に行ったものでした。

信太山丘陵の湿地で受粉させて種を採り、それを青年Tが無菌培養で発芽させ、約400株まで増やして大きなプランタ8個に移植。花田さん宅の庭で育ててきました。

花田さんご逝去後、預かったプランタをあ

る所で保存し、毎春プランタ内での植替えをし、その際に余った球根を信太山丘陵の湿地、惣ヶ池湿地に移植実験をしてきました。

今まで移植実験地では、信太山丘陵の湿地3ヶ所では1ヶ所、惣ヶ池湿地では3ヶ所で移植して1ヶ所で成功しています。



惣ヶ池湿地に移植したサギソウ

信太山丘陵のサギソウは、園芸店などで売られているサギソウに比べ花が小さいのが特徴ですが、惣ヶ池湿地に移植したものは、富栄養湿地のためか花の大きさが園芸店などで売られているものと変わらず、湧水湿地のものは信太山丘陵固有種と変わりありません。

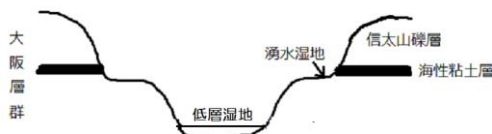
今後は、トキソウ、モウセンゴケなどの希少種についても増殖できないか検討しているところです。

湿地の保全保全活動（低層湿地）

信太山丘陵には、惣ヶ池湿地と自然公園内に点在する小規模の湧水湿地の二種類があります。

惣ヶ池湿地は谷筋の底の部分に形成された低層湿地と言われ、水質は腐葉土などが混ざる栄養価の高い（富栄養）湿地になります。

一方、里山自然公園内に点在する湿地は、湧水湿地と云われ、雨水が地面に浸透して地中の粘土層（海であった時代に形成された海成粘土層）に突き当たった浸水が斜面から湧き出している場所で、貧栄養の湿地と云われる小規模の湿地です。



◇惣ヶ池湿地の保全活動

今回は2012年から毎月2回保全活動を実施している低層湿地の惣ヶ池湿地について触れてみます。

惣ヶ池湿地では、絶滅危惧種のコモウセンゴケ、オオミズゴケ、ムカゴニンジン、コシンジュガヤ、コバナノワレモコウ、ミズオトギリ、タチカモメヅル、アギナシ、ハンゲシヨウ、シソクサ、サギソウ（移植種）、コマツカサススキ（移植種）など絶滅危惧種とホソバリンドウ、ヌマトラノオ、カンガレイなど惣ヶ池湿地の希少種を保護しつつ、湿地周辺のネザサ刈り、枯木の伐採を行うとともに外来規制種のキショウブ、外来移入種のスイレン、アメリカセンダングサ、アメリカミズキンバイ、繁殖し過ぎたミゾソバ、ミズユキノシタなどの駆除作業を主に行ってきました。

2012年に発行された大阪みどりのトラスト協会が編さんした「市民による持続する信太山湿地保全システムづくり<植生管理マニュアル>」によれば「シフティング・モザイク・システム」を導入することになりました。

シフティングモザイクシステムとは、湿地を3mとか5m四方の碁盤の目状に区切り、その内の1区画又は2区画を耕起して大型雑草を除去し、更地状に戻すことで湿地の更新と埋土種子の復活が期待できるというものです。

今後の保全活動では、従来の保全活動に加え、モザイクシフティングシステムによる湿地管理を取り入れた活動も考えていかなければならいのかなと考えています。

編集後記：3ヶ月遅れの発行となりました。定期発行できるように皆さんからの寄稿をお願いいたします。